

スポーツツーリズムにおける消費動向把握と効果的な観光DX推進に関する研究

静岡産業大学 経営学部 万浪研究室

教 員：准教授 万浪靖司

参加学生：伊藤勇輝、武田明莉、福田幸大、今藤椋右、
唐竹陸叶

1 要約

現行の宿泊費助成金制度の効果検証を通じて課題を明確化し、若者視点を反映した効果的な制度を提案する。

- 1) 宿泊費助成金制度の現状分析を行い、観戦者増加や観光消費拡大の効果をもたらす要素を把握する。
- 2) 上記1)を考察し整理することで、制度改善のための具体的な提案を行う。

2 研究の目的

藤枝市の本件のテーマ「スポーツツーリズムにおける消費動向やニーズの把握、観光DXによる地域資源の効果的な活用方法の提案と効果検証

3 研究の内容

①藤枝市プロスポーツの試合観戦者宿泊費用助成金活用モデルの課題解決提案

②藤枝市スポーツ大会参加者宿泊費用助成金活用モデルの課題解決提案

上記「案件①」について、下記スケジュールにて推進する。

- 1) 現状把握Phase (2024年7月～9月)
- 2) 試合観戦モデル（観戦・宿泊・飲食・買い物）の体験（2024年9月25日）
- 3) 現状分析Phase (2024年10月～12月)
- 4) 課題解決提案作成Phase (2025年1月～2025年2月)
- 5) 学内成果報告（2025年1月）
- 6) 最終成果報告書提出（2025年2月）

4 研究の成果、

(1) 当初の計画

①藤枝市プロスポーツの試合観戦者宿泊費用助成金活用モデルの課題解決提案

②藤枝市スポーツ大会参加者宿泊費用助成金活用モデルの課題解決提案

上記「案件①」について、下記スケジュールにて推進する。

- 1) 現状把握Phase (2024年7月～9月)
- 2) 試合観戦モデル（観戦・宿泊・飲食・買い物）の体験（2024年9月25日）
- 3) 現状分析Phase (2024年10月～12月)
- 4) 課題解決提案作成Phase (2025年1月～2025年2月)
- 5) 学内成果報告（2025年1月）
- 6) 最終成果報告書提出（2025年2月）

(2) 実際の内容（Aは予定どおり、Bは一部修正、Cは中止など）とその理由

- 1) 現状把握Phase（2024年7月～9月） ⇒ A
- 2) 試合観戦モデル（観戦・宿泊・飲食・買い物）の体験（2024年9月25日） ⇒ B
(変更点) 試合観戦モデル（観戦・宿泊・飲食・買い物）の体験に関する変更
 - ・宿泊あり観戦と宿泊無し観戦の比較を行うため、宿泊者と宿泊無し者に対象者を分けることに変更した。
 - ・また、宿泊あり観戦については宿泊場所による相違点を2拠点で実施した。
(当初) 宿泊対象者 10名
(変更後) 宿泊対象者 2名、非宿泊対象者 4名
- 3) 現状分析Phase（2024年10月～12月） ⇒ B
(変更点) 図書費に関する変更
 - ・専門書文献購入は、学内図書館書籍の活用により削減することが出来た。
- 4) 課題解決提案作成Phase（2025年1月～2025年2月） ⇒ A
- 5) 学内成果報告（2025年1月） ⇒ B
(変更点) 成果報告に関する変更
 - ・成果報告会については、学内開催の「卒業研究・制作展」への出展が可能となり、学内成果報告と最終成果報告書の作成に変更した。
- 6) 最終成果報告書提出（2025年2月） ⇒ A

(3) 実績・成果と課題

【現状把握】

現在藤枝市が行っているスポーツ観戦者を対象に宿泊費と観光に最大2000円助成する制度である。制度は2023年から開始され今年で2年目となっており、当制度は試合観戦者増加と市内観光消費の拡大の2つを目的に行っている。(図1参照)

2023年度の年間利用者および2024年度の10月までの利用者データを見るとエリアと年代ごとに偏りが見られました。

図1 藤枝市の原稿制度

現行の制度について

藤枝市の宿泊費等助成金制度の目的

試合観戦者の増加

市内観光消費の拡大

制度の概要

- ・2023年度から制度開始
今年で2年目
- ・対象者：試合観戦者
- ・助成内容：宿泊費と市内消費に最大2000円の助成
- ・利用条件：藤枝市内の対象宿泊施設に宿泊
観戦チケットや会場での撮影



図2 エリア別比較

エリア別 比較

エリア	割合
北海道・東北	13.8%
関東	50.7%
北陸・甲信越	9.1%
東海	9.0%
近畿	5.6%
中国・四国	7.1%
九州・沖縄	4.7%

都道府県別ベスト10	
順位	都道府県名
1	東京
2	埼玉
3	群馬
4	山形
5	神奈川
6	石川
7	静岡
8	岡山
9	愛知
9	千葉
10	宮城

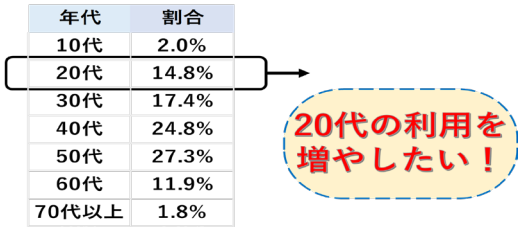
出典：藤枝市観光交流政策課作成 「R5年度藤枝市プロスポーツの試合観戦宿泊費等助成金各種集計データ」

まずはエリアについてである。図2の様に関東圏が全体の半数を占めている。次に都道府県別ベスト10の表を見ると関東圏の都道府県が上位にきていること分かる。静岡県内在住の利用者は7番目に多く、もう少し県内利用者を増やしたいと考える。

次は年代についてである。図3の様に20代の方の利用者は全体の14.8%で30～50代に比べて少ないのが分かる。若者にあたる20代の利用者を増やしたいと考える。

図3 年代別比較

年代別 比較



以上より、想定される課題は、アクセスが悪い、認知不足、手続きの複雑さ、助成金額などが上げられる。

【実地調査】

こちらの課題を明確させるために10月26日に実地調査を行った（図4参照）。藤枝総合運動公園サッカー場がある最寄り駅（藤枝駅）から試合会場までの往復路でのタクシー及び無料シャトルバスを利用し交通面の利便性などを体験して、その後、ヒヤリング調査を実施した。

まず、図5、は我々が試合観戦に付随した支出一覧である。グラフを見て分かったとおり宿泊費が支出全体の半数を占めている。

図4 実地調査概要

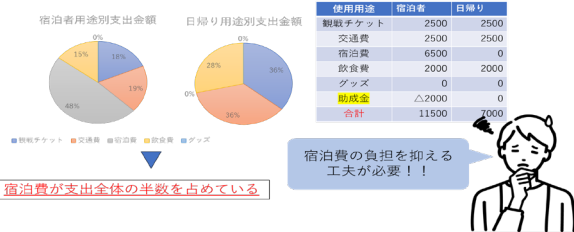
実地調査概要

- ・ 試合日： 2024年10月26日（土）
- ・ 試合会場： 藤枝市総合運動公園サッカー場
- ・ 対象試合
藤枝MYFC vs ジェフユナイテッド千葉戦



図5 実支出一覧

試合観戦に付随する支出



次は観戦者の移動手段についてである。7割強の観戦者が無料シャトルバスを利用している。各移動手段の利用される理由や課題については、シャトルバスは無料であり数分おきにバスが来るため利便性が非常に高いため選択されやすい。しかし、混雑しやすいという課題はある。また、タクシーについては、試合観戦後1人500円で乗れるシェアタクシー制度がある。しかし、まだ認知度が低く利用者が少ない状況である。今後の告知によっては利用が増えるのではないかと期待ができる。一方、自家用車は事前予約制度で駐車料金が1500円ほどかかる。こちらに関しては地元や近隣地域の居住者に利用が多いと考えられる。

【ヒアリング調査】

次は静岡産業大学の学生にヒアリング調査を行った際の結果である。質問は、「藤枝市の助成金制度を知っているか？」「いくら助成額があれば利用したいと思うか？」「立て替えに抵抗があるか？」とした。まず制度の認知度では9割の学生が知らないと回答しており、求める助成金額では2000円と回答した学生は1人もおらず最低でも3000円を求める傾向にある。立て替えに対する抵抗に関しては多くの学生が抵抗を感じている。観戦者に宿泊を伴って試合観戦をしてもらうには宿泊費の負担を抑える工夫が必要であるとする。また、学生へヒアリングをした際に「試合後のシャトルバスで一時間以上待たされたことがある」や「藤枝市の観光地ってどこ？」などの声があった。現状では移動手段が限られているため、宿泊や観光への波及効果が低いと感じられる。

【ヒアリング結果よりの考察】

そもそも若者が求める制度とは何かについてまとめると、
1つ目は、魅力的な特典である。若者限定の特典として学割や、友人同士で参加するとお得になる「グループ割」などがあれば気に留めるという声があった。

2つ目は、簡単な申請プロセスである。記入事項等を最小限に抑えた簡易的な手続き方法を望む。

3つ目は、金銭的お得感である。制度利用によってどれだけ安くなるかのインパクトがほしい。また、宿泊施設の予約時や会計時に助成金があることがその場で反映される仕組みの方がお得感を感じる。

【先行事例】

また、先行事例との比較検討をするため、他の自治体で3年以内に実施された宿泊費助成金制度のサービス内容なども調査した。袋井市は藤枝市と同様、助成金が後日振り込まれる体制を取っている。しかし、袋井市も佐賀市も助成金額が宿泊費に最大5000円も設定されている。こうしてみると藤枝市の助成金制度は他事例に比べて助成金額が少ない傾向にあると考える。

(4) 今後の改善点や対策

- ・スポーツ観戦に付随する宿泊や観光における総支出は1万円を超え、それが県外在住者だった場合、これら支出に加えて新幹線代などの交通費往復の費用が追加で発生する。
- ・事前調査で、学生がスポーツ観戦において支出できる金額は1万円～2万円程度。現在、藤枝市の助成金制度は他の自治体で実施される助成金制度と比べて利便性が悪い。
- ・他の自治体では事前申請によって宿泊当日のホテルのチェックイン時に提示して宿泊費の割引がされる形で運営されるため、料金の立て替えの負担感が少ない。
- ・また、他の自治体の補助額も3000円～5000円程度と藤枝市に比べて高額である。
- ・実際、調査に参加した学生からのヒヤリング調査では、学生の多くは料金の立て替えに対して金銭的な抵抗を抱いていることが確認されている。

5 地域への提言、

以上の結果から、宿泊助成制度の利用促進に向けて提案する仮説を設定する。

- ・SNSを活用した情報発信で認知度を高める。SNSを活用した情報発信を強化することにより制度の認知度が大幅に向上し、特に若者の利用者が増加する。
- ・申し込みを簡略化し、利用しやすい仕組みにする。宿泊施設の即時割引制度を導入することで制度の利用率が増加し、市内観光消費額が上昇する。
- ・助成額を最大3000円に増額する。宿泊費に2000円助成することで宿泊費の負担を軽減できる。

さらに、2つの提案を行いたい。提案1は、「予約時割引制度」である。宿泊予約時に割引される仕組みを導入することで立て替える負担を無くすることができる。次は提案2は、「助成金の増額」である。現行では宿泊費に最大1000円の助成がある。現行から1000円アップの最大2000円に増額することで宿泊費の負担を軽減することができる。最後に提案3は、「電子商品券の導入」である。現行の制度では食事やお土産などの観光費用に最大1000円の補助がある。そこで電子商品券を導入することで観光消費が増え、地域経済の活性化が促進される。

6 地域からの評価

藤枝市におけるスポーツの魅力は大きいと判断する。特にスポーツ観戦が非常に盛んである。従い、今回の研究対象のような「藤枝市の宿泊費助成金制度の効果」を通じて、若者視点を反映した効果的な制度に向上することは、地域からの表かも向上すると考える。

(参考文献)

藤枝市観光交流政策課作成「R5年度藤枝市プロスポーツの試合観戦宿泊費等助成金各種集計データ」
一般社団法人藤枝市サッカー協会ホームページ <http://www.fujieda-fa.com/>